



# 東九州支部報

第107号

公益社団法人日本山岳会東九州支部  
2024年10月25日(金)発行



安東支部長環境大臣表彰受賞祝賀会 2024-9-7

も く じ			
1. 支部活動		より安全な登山のために (No.55)	10
安東支部長 環境大臣表彰受賞祝賀会	2	古典「山岳」拾い読み (No5)	11
全国支部懇談会(神奈川)に参加して	3	こぎこぎ倶楽部山行 陸地峠～枯樞	12
7月月例山行 富士山	3	こぎこぎ倶楽部山行 神楽山	13
8月慰霊碑登山 山の安全を祈る集い	5	こぎこぎ倶楽部山行 中ノ嶺～宗太郎峠	14
9月月例山行 石鎚山から鞍岳へ変更	6	犬戻峡 沢登り	15
登山教室 座学 救急法講座	7	陶ヶ岳 クライミング	16
登山教室・シニアトレッキング 久住山	7	沢登り研修コウザキ谷に参加して	17
アップスキリング沢登り 奥岳川	8	私の無名山ガイドブック (No94)	17
山の日登山 雨乞岳・烏帽子岳・鎧ヶ岳	9	アマ・ダブルムエクスペディション	18
2. 個人投稿		3. お知らせコーナー	19
ペンリレー (第50回)	10	後 記	20

## 安東支部長環境大臣表彰受賞 祝賀会

加藤英彦(会員 8765)

9月7日(土)ホルトホール・ホルトガーデンにて出席者 40名 (18:00~20:30)  
7月17日 大分県庁にて環境大臣表彰される。  
事由・・・永年の環境保護活動と地域環境美化に関して顕著な功績があったため  
受賞内容・・・自然公園指導員として永年にわたり野生動植物の保護活動や登山の講習等を行うとともに登山地図の調査執筆を行うなど地域の自然環境保全に寄与している。



支部より案内のもと、丁度40名の会員会友が集まり祝賀会が行われた。メンバーは最長老95歳の安藤幹さん、93歳の星子貞夫さん、88歳の首藤宏史さん、遠来では静岡から駆け付けた江藤幸夫さん、九重町の甲斐良治さん、杵築からは興田勝幸さんと、顔なじみの会員達が祝福に集った。当日の司会進行は佐藤彰さん、阿南事務局長の開会のあいさつで始まり、安東支部長より自分のこれまでの歩いてきた詳細なる説明をいわば自分史が書けるような内容の説明があり、特に自分が山に登るきっかけとなったところは印象に残った。そして本日の祝賀会に集っていただき大変ありがとうございました。とお礼のあいさつがあった。続いて加藤英彦顧問より、本日はおめでとう祝賀会です。支部として2回目の祝賀会、前回は昭和62年の野口秋人支部長の叙勲のお祝いでありそれ以来のめでたい祝賀会となった説明あり、お祝いの祝辞のあいさつがあった。祝電披露2通、花束贈呈をして、大臣表彰された経験がある首藤宏史先生の乾杯の発声にて祝宴が始まった。

安東さんは7月19日竹田市消防本部より感謝状も授与されている。6月2日に祖母山での遭難事故における救助活動の功績で感謝状をいただいており二重の表彰で喜ばしい事でこの表彰についても披露された。当日の出席者名簿の入ったレジメが用意されており、“プロフィール”“主な登山歴”“受賞内容”が掲載された物が配布された。さてしばし歓談の後、司会者により、指名された方はお祝いのスピーチがあった。それぞれ安東さんとの関わりやエピソードなどを含めて心温まるスピーチの連続であった。中でも遠来の江藤さんのスピーチは山に対する思いや、自分の体験を含めて思いを込めた江藤さんらしいスピーチであった。この席で安東さんは今年10月20日よりネパール、ヒマラヤ山脈のアマ・ダブラム峰(6856m)に遠征する計画が披露された。個人山行ではあるが、他の支部員 秋山和俊さん、笠井美世さんとも参加する。千葉支部の有志と合同パーティーでの遠征であるとの説明があった。今年、安東さんにとっては2つの表彰と海外遠征という大きなイベントが予定されており忘れられない年となるのではとの思いである。40名の仲間にもまれて心のこもった祝賀会も最後、興田勝幸さんの閉会のあいさつでお開きとなった。安東さんおめでとうございます。

そして、気を付けて行ってらっしゃい。  
準備役員…加藤、阿南、下川、中野(稔)、佐藤(裕)、佐藤(彰)、平原(健)、笠井、



## 全国支部懇談会 (神奈川)

### に参加して

下川 智子 (会員 14505)

5月25日(土)26日(日)の2日間、第37回全国支部懇談会が神奈川県平塚市で開催された。全国から24支部、合計134名の参加があった。東九州支部からは下川と青木美代子さんが参加した。

1日目はグランドホテル神奈中平塚で受付の後、バスで湘南平へ。高台にあり湘南の街や相模湾を一望のもとに眺められる。海風が強く吹いて寒いくらいだった。広場の一角に岡野金次郎の顕彰碑がたっている。岡野金次郎は、日本山岳会初代会長の小島烏水と登山家として初めて槍ヶ岳に登った人物で、今年生誕150年となる。岡野の顕彰碑の横で第1回岡野金次郎碑前際が行われた。込田伸夫神奈川支部長の挨拶のあと、平塚市長、橋本しをり会長、岡野金次郎の孫や小島烏水のひ孫の挨拶が続いた。身内でしか知りえないエピソードなど興味深く聞いた。岡野の功績紹介、会員によるフルート演奏のあと、顕彰碑の前で全員で写真撮影をしてバスでホテルに戻った。ホテルの広間で18時30分より懇談会が始まる。会場についてみると、私たちの名前ががなんとステージの真ん前、橋本しをり会長や尾上昇元会長と同じテーブルにありビックリ！会場には千葉支部の松田宏也さんや三田さん、宮崎支部事務局長の橋口三枝子さんなどもいて楽しく懇談した。

翌日はA,B,Cの3コースに分かれ、Aコースは三浦アルプス、Bコースは鎌倉ハイキング、Cコースは自由行動となる。私と青木さんはAコースの三浦アルプスに参加する。三浦アルプスは、三浦半島を東西に横断する山稜で標高は200m程度の低山だがアップダウンが多く葉山町、逗子市、横須賀市の境界エリアに位置している。

6時30分朝食、8時ホテルを出て平塚駅から東海道線に乗り大船で横須賀線に乗り換え逗子駅下車。路線バスで風早橋まで行く。1班8名から10名に分かれ、北九州支部の皆さんと一緒になる。バス通り脇の登山口から登り始めるとすぐに急登になる。15分くらいで仙元山に到着。振り返ると江の島、相模湾が目の前に広がる。トイレ

はここが最後と言われる。しばし相模湾の景色を楽しんだ休憩のあと、長い階段を下りすぐに200段の登り階段が続き三浦アルプスのアップダウンの縦走がスタート。コースを通して樹林帯の中なので時折吹き抜ける風が心地いい。途中、大桜という山桜のある場所で昼食。登山道の上に送電鉄塔がありそこで後発組が昼食をとっている横を通り抜けしばらく行くと乳頭山に到着。頂上からは東京湾や遠くにスカイツリーもかすかに見えた。



頂上からは急な下りとなり、田浦梅の里に着く。広い梅林には展望台もあり写真撮影のあとトイレ休憩。その後梅林の中を通り、田浦の町に下りつく。舗装道路をしばらく歩き田浦駅到着。同行の本部の長島さんの挨拶のあと解散となった。

数年前の北海道支部の全国支部懇談会以来2回目の全国支部懇談会参加となったが、初めての山を初めての人と楽しく登ることができるのも日本山岳会という組織の会員故のことであると思う。次回は関西支部設立90周年式典と合わせ、来年10月26日(日)27日(月)に大阪で開催される。

東九州支部からも多くの会員の参加を促したい。

## 富士山 (3,776m)

### 7月月例山行報告

山村 文彦 (会員 16905)

2024年7月26日・27日・28日の3日間富士山登山に備えて、鶴見岳一気登山は雨で中止となったが、雨中での由布岳登山は、雨が多い富士山登山準備としては大変良い訓練、覚悟となった。長時間の雨、防水グッズの大事さを認識し、事前準備品の見直しができた。特に、由布岳山頂付近は風雨が強かったものの、富士山はそれ以上

であると聞いて気持ちを新たに。また、傾山登山の折には、その厳しさと突然の両足痙攣を経験し登頂を断念し下山した時の口惜しさ、富士山登頂できるのか不安におびえながら鍛錬した。

7月26日(金)午前5時12分大分駅を出発、小倉から新幹線のぞみ号で11時36分に新富士に到着。富士山五合目までのバスの途中、見上げる富士山はあいにく雲の中、時折りてっぺんだけが見え隠れする。14時30分五合目到着、登山準備をしていると、いきなり下山していた男性が倒れびっくり。どうも高山病のようだった。

高山病にならないように深呼吸を繰り返し、30分程度で六合目(雲海荘)に到着。初めての山小屋泊に胸おどる気持ちであった。山小屋の奥さ



んは親切な方で、山小屋はカレーが定番であるから、明日も九合目小屋泊であれば牛丼が中華丼へと変更してくれた。

全員で高山に体を慣らすため、15時30分宝永山2,698mに登山開始。ゆっくりと登り始めたががれきの急斜面で、踏ん張っても踏ん張ってもずるずるとなかなか前に進めず、途中引き返したい気持ちで一杯だった。17時宝永山登頂後、急いで下山し18時に山小屋着。宝永山は意外と厳しい山行であった。雲海荘の夜は、寒くはなく、逆に布団が暑いくらいであった。宿泊客はトイレ無料、立ち寄り客は、300円であった。

7月27日(土)、早朝4時起き、朝の弁当をもらって山頂目指して5時六合目を出発。ゆっくりとしたペースで、歩幅を狭く呼吸を整えながらの歩行、途中背中にゼッケンをつけた人たちがどんどん先に追い越していった。この人たちは、田子の浦海拔0メートルから富士山頂まで目指している人たちで往復82キロ、すごい健脚の方たちであった。

6時16分新七合目2,780m、7時20分元祖七合目3,010mに到着。六合目から新七合目、元祖七合目とこの間は砂利道の連続で踏ん張れず、前になかなか進むことが難しく急登の連続で、昨日の宝永山登頂を思い出しながら、上の山小屋が見えているにも拘らず立ち止まる回数の方が多かった。この間にもミニスカートにサンダル履きの女性など、色々な老若男女が追い越していったのには、実に驚くばかりであった。

元祖七合目で、高度3,000mを超え、さらに急登感も増して息絶え絶えになることが多くなった。8時38分八合目3,250m到着後、37分の休憩。もう九合目は見えている、すぐに着くだろうという逸る気持ちとは裏腹に、急登で息は絶え絶えとなり、さらにペースはゆっくりと牛歩の歩み。やっとのことで、10時過ぎ九合目(万年雪山荘)3,460mに到着し、最終尾を待つ間に山菜うどん(800円)、富士宮焼きそば(1,000円)を食べて剣ヶ峰に備えた。

11時14分、お鉢巡りを目指して出発。12時までの登頂を予定していたが1時間遅れであった。11時47分、九合五勺3,590m、12時40分富士山頂上霊峰浅間大社奥宮3,720mに到着。すぐに登頂祈念のお参り、御朱印を受領。また、隣にある富士山頂郵便局で郵便発送、登山証明書を受領した。遂に登ったぞーという達成感で一杯になったが、てっぺんは「剣ヶ峰」、気持ちを奮い起こして、13時再度出発し、30分程度で剣ヶ峰3,776mに到着、頂上では記念撮影の順番待ちで長蛇の列をなしていた。

剣ヶ峰で一人一人の写真と集合写真を撮って、



すぐさま雷鳴轟く中でのお鉢巡りへの出発となった。頂上到着時から空模様は急変し雷雨の様相に一変していた。通常のお鉢巡りのコースタイムは90分であったが、雷雨に合わないよう急ぎ足

60分で一周し、14時40分には下山を開始した。やがてに小雨がぱらつき始めたが、幸いにも濡れることなく15時30分頃九合目万年雪山荘に着いた。到着後、荷物の整理をするが、部屋は狭く一つの布団に二人が寝るようなスペースであった。夕食は、定番のカレー、水500円、ビール800円であった。

20時消灯時間を過ぎて、インバウンドの団体客がワイワイガヤガヤと到着、その後カレーの食事。寝静まったかと思えば25時過ぎには起き出して、また出発でワイワイガヤガヤ。狭い上にうるさくてとても寝られる状態ではなかった。

7月28日(日)寝不足のままに早朝4時起き、熱いお茶に弁当の朝食を食べて、山小屋スタッフの案内でご来光ツアー。残念なことに雲の合間か



らの日の出ではあったが、晴れて下界の景色が見えて満足であった。5時過ぎ万年雪山荘から下山開始。下山の際には、影富士を見ることができラッキーであった。下りは登りよりずっと楽ではあったが、砂利道で滑り落ちそうなので慎重に歩みを進め、8時頃全員無事に六合目雲海荘に到着。

新富士行きバスに乗って、花の湯入口で途中下車、3日間の汗を流せた大変気持ちの良い温泉であった。14時8分の新幹線こだま号に乗って、20時42分に大分駅に到着。

今回の富士山登山では、リーダーには大変お世話になった。7月富士山山開き後に夫婦で下見登山に行ったと聞いてびっくり。また、事細かな采配と参加者全員に対する気配りにも敬意。念願の富士山登山が出来て本当に有難うございました。参加者・・・中野(稔)CL、平原(健)、山村(文)、中野(梨)、平原(瑞)、青木(美)、諸田(佳)、吉田(三)、矢野(貢)、濱田(翔) 以上10名

## 8月慰霊碑登山

### 安全を祈る集い

安東桂三(会員9193)

2024年8月4日(日)

「山の安全を祈る集い」が、開催された。池ノ小屋の小高い丘の上に建つ慰霊碑前に、午前11時集合として、各自が集まった。昨年は、九州5支部集会和行事と兼ねて開催したが、悪天のため、法華院温泉山荘での開催であった。今年は慰霊碑のある丘で開催出来、良かった。2010年を第1回目として、今年は15回目を数える。

支部会員は概ね、牧ノ戸を8時頃出発し、慰霊碑を目指した。星生山を経由して慰霊碑に行くメンバー、直接最短ルートで行くメンバー、各自が自分のペースで、集まった。



集いは11時、中野稔会員の司会で始まり、安東は、昭和5年8月11日の遭難

事故について述べ、我々もこれを記憶に留め、我々も事故のないようにと注意喚起した。

慰霊法要は九重山法華院白水寺弘蔵岳久院主により執り行われた。お経をあげるご挨拶、追悼文を読まれ、『妙法蓮華経如来寿量品偈』『摩訶般若波羅蜜多心経』と唱え、参加者は焼香を行った。弘蔵院主は、大分県山岳遭難対策協議会の玖珠分隊の隊長もされていて、今年は事故が多い、大船山に一日に二度も大分県防災航空隊のヘリコプターが救助に飛んできたこともあり、佐賀県や熊本県のヘリコプターも救助に出動したこともある、などと参加者に安全登山を呼び掛けた。

最後に加藤英彦顧問が、この「集い」は、当支部の行事として、長く続けていきたい、日本山岳会では、「引き継がれる山岳祭」としてプロジェクトを立ち上げているが、当支部の山岳祭として考えたいと述べた。

その後、記念撮影し、昼食のあと、解散した。



参加者・・・弘蔵岳久、加藤、阿南 CL、安東、中野(稔)、下川、工藤、今川、神田、境、尾家、河野、平原(健)、笠井、中野(梨)、木下、松村、秋吉、清水(道)、古谷(耕)、平原(瑞)、古谷(あ)、上野、佐藤(美)、井村、中島、高橋、井口、矢野

## 鞍岳(1,117m)石鎚山から変更

### 9 月月例山行報告

廣瀬 健一郎 (会友 297)

9月21日・22日石鎚山雨天のため中止で9月23日(月)鞍岳・ツームシ山に変更。

台風14号が日本海付近に停滞する秋雨前線に湿った空気を容赦なく送り込み、石川県にもたらした大きな被害の哀しみと苦しみは消えることなく残ったが、石鎚山行ははかなくも消えてしまった。もやもやを抱えて一人大船に行こうかと思ってたところ、『鞍岳に行きませんか?』というリーダーからの誘いはもはや神。やけにメールの着信アイコンが光っていたのは目の錯覚ではあるまい。鞍岳、ツームシ山が初めてどころか、県外遠征すらも初めて。楽しみでしかない。

以前に佐藤裕之さんらが鞍岳に行った際はあまり眺望が良くなかった(天候不良?)ため今回せっかくだからということで山行計画を練ったらしい。ただ移動車中からの阿蘇山はガスガス。リーダーの『大丈夫、僕は晴れオトコだから』という声はとても力強いが、(でも石鎚山は雨天中止でしたよ)と心の中でつぶやいたのは私の生来の優しさと微かな希望からだった。

果たして登山口に到着してみると、風は結構強いがおかげで雲も少ない様子。楽しみでしかない。

登山口からはまずは森の中を歩行、あまり整備されていない山中は野趣あふれて好感度すでに上昇中。林道を挟み、森が少しだけ深くなり、風も少し冷たく空気も少しだけキリっとする。秋がすでにここにはあった。特に急登もなく、岩場もあり、更に好感度もアップするのも束の間で、一気に眺望が開けたら女岳。

朝のリーダーの予言は間違いでなかったことを心の中でお詫びしたかったけど、それも忘れるくらいのパノラマ。登山開始から1時間で味わえる贅沢。でも風がとても強い。鞍岳までもほんの僅かで到着。阿蘇山、熊本市内や有明海、普賢岳も微かに見える。熊本市民いこいの金峰山もとても可愛い。お土産に持ってかえりたいくらいだ。

1100メートル、侮れない。参りました、降参です、大好きです。白旗を上げたまま、ツームシ山で昼休憩。食事中はやはり風が強く、ウインドブレーカーを着込むが、リーダーの自分で髪の毛をカットする話は風速を弱める効果があるのか、食事前より少しだけ穏やかな感じ。ツームシ山にも神(髪)は宿る。下山はパノラマコースと銘打っているが、あまりパノラマは臨めない。そんなことは全然気にはならないくらい下山は分岐点がたくさんあり、とても勉強になる(集中)次回来たときは不勉強であれば間違いなく迷う(誓っても良い、胸を張って言える)。復習必須。15時、無事にどなたもケガなどなく下山。

佐藤裕之さん、企画をどうもありがとうございました。佐藤彰さん、どうもありがとうございました。みなさん、本当にありがとうございました。心から楽しめました。(決してアーティスト気取りではありません、本心から思ってます、金峰山に誓います) 帰りの車中、国道57号線竹田市菅生の道路沿いのトウモロコシの、おそらく最



後の収穫を終えたあとに刈り取られてサイレージとなるのを待つだけであろう姿は、平地で初めて感じた今日の秋でした。

参加者・・・佐藤(彰)CL、佐藤(裕)、佐藤(美)、井村、河村、荒巻、広瀬、大前

## 登山教室 第3回 座学 登山における救急法講座 佐藤 裕之(会員 16135)

7月31日(水) ホルトホール第201会議室  
講師 天心堂へつぎ病院 山岳ファーストエイド  
プロバイダー 宮本陽子氏

登山におけるファーストエイドすなわち野外での初期応急処置の基礎を学ぶ。

外傷、ダニ、救助要請の仕方、低体温症、熱中症、テーピング、同実技、山のマナーなど、講師の豊富な経験に裏打ちされた具体的な講義であった。



特に、テーピングの実技、低体温症、熱中症の措置など、あらためて「そうだったのか!」と気づかされることも多く、登山者必須の知識と思える。

今回、会員等の参加も呼びかけたところ、出席者多く、会場は満席に近い盛況であった。

講師の都合がつけば、来年も同様の形式で開催されるはずなので、今年受講できなかった会員等は、是非、受講していただきたい。

## 登山教室 第4回 実地 シニアトレッキング 久住山(1786m) 佐藤 裕之(会員 16135)

9月8日(日) 場所：牧ノ戸峠～久住山等  
コース・・・(のんびりコース：牧ノ戸峠～久住山～牧ノ戸峠)、(元気コース：牧ノ戸峠～星生山～久住山～牧ノ戸峠)、(健脚コース：牧ノ戸峠～天狗ヶ城～中岳～久住山～星生山～牧ノ戸峠)

登山教室は、過去「ちょっと難しい山に登る」というテーマで、鋸岳や津波戸山などに登っていたが、受講生の中には、当該山域に対応できないレベルの方もおり、支部としてもリーダーの確保に苦慮するなど事故その他の問題もあったので、今回、久住山において3コース設定して、各人の体力に応じて参加してもらうこととした。

また、登り慣れた山域でもあり、安心して歩けるなどの観点から今回、シニア山行との共同開催ということで、呼びかけたところ、多くの参加者が集うこととなった。

例年、この時期山は少しづつ秋の気配が濃くなり、涼しくなるころではあるが、今年度の猛暑の延長で熱中症が心配されるほどの暑い日となる。ちょっと心配ではあったが、大きな影響なく夏の延長の山を楽しむことができた。

出発前に支部長あいさつ、また支部長自らの指導の下に準備運動して出発。

～登山教室～

出発前に注意事項 「先日の獺師山登山で、ダニに刺された方と、ストックを折られた方がいるので、注意されたい。」



次いで、牧ノ戸峠におけるコンパスの整地の研修を行ってから、出発する。

健脚コースは、なかなかの速足であったが、元気とのんびりは、ゆっくりと山を味わった。3コース設定したことにより、それぞれのレベルに応じて山行を楽しむことができ、総じて成功であったと思う。

～シニアトレッキング～

全体に快調で、健脚コースは予定の中岳では時間が余り、稲星まで歩いたとのことである。さすがである。

最終的に、登山教室受講生で体調不良で沓掛手前で降りられた方1名、下山途中、足が攣りかけた方2人で、大きな事故なく終わられて良かったと思う。今回、登山教室組には地図研修を行い、それなりの意義はあったとも思うが、時間その他の関係もあり、実施方法について今後考慮したいと思う。

参加者…安東総括、佐藤(裕)総括、中野(稔)CL、佐藤(彰)CL、笠井CL、中野(梨)、佐藤(美)、河村受講生 23名

シニア：下川CL、平原(健)CL、上野CL  
境、尾家、清田、松村、平原(瑞)、榎園、古谷(あ)、青木、井村、中島、高橋、山田、井口、矢野、荒巻、廣瀬 計19人

## アックススキリング沢登り 奥岳川

荒巻太介(会友291)

7月6日(土) 天気晴れ 気温36度 降水確率10%の下で実施されました。

午前8時 道の駅原尻の滝集合その後2台に分乗し県道7号線で奥岳川に向かう尾平大川橋駐車場に到着(9時頃)そこから徒歩で県道を下流へ2kmほど下り入渓(9時40分頃)入渓後、間もなくリーダーのさんかくとしょうをしますとの声



私には何のことやら分からず皆さんを見ているとロープを使って安全に川を渡る方法だと分かりました「三角徒渉」「三角渡渉」この他にもスクラムだったり皆で連なったり渡る方法があることも研修できました。更には川の右岸、左岸 流れの浅い深い水の冷たさにやや震えながら、又は腰に色々な物をつけていると自由に泳げないことも体験しながら駐車場に戻り昼食(12時30分頃)休息の後崖登りロープワーク 崖下のけが人の救出研修などの充実した一日でした。



昨年登山教室に参加させて頂き今年会友にして頂き駆け出しの「ど素人」がほんの少し経験をさせて頂いたお陰で「ど」がとれて「素人」位に成れたのかな?

素人から少しだけ上を目指して努力したいと思えます。これからも皆様にご迷惑をお掛けするかもしれませんが宜しくお願い致します。

参加者…安東CL、櫻井、佐藤(彰)、甲斐(善)、上野、川村(真)、荒巻



## 2024年山の日登山

## 「雨乞岳・烏帽子岳・鎧ヶ岳」

## 「ふるさとの山に登ろう in 大分市」

阿南寿範 (会員 9169)



茶屋場前の広場 集合写真

8月11日は国民の祝日「山の日」である。2014年に山の日が国民の祝日として制定されたのを記念して、15年に大分県山の日登山実行委員会(県下山岳関係3団体:大分県山岳連盟・大分県勤労者山岳会・日本山岳会東九州支部で構成)を発足させて、久住山で「山の日登山」を実施したが、翌年からは「ふるさとの山に登ろう」をコンセプトに、県下の市町村で順番に実施しようということになった。その第1回目は大分市の霊山で、第2回目は別府市の小鹿山、第3回目は中津市の八面山、第4回目は日田市の亀石山、第5回目は九重町の崩平山、そして今回(第6回目)は大分市・豊後大野市境の雨乞岳、烏帽子岳、鎧ヶ岳である。

この日も連日続く猛暑、気温は朝からグングン上がり熱中症警戒アラートが今日も引き続き出ている。それでも、四辻峠に集まったのは総勢84名。一般登山者を含む、各会の人たちである。9時30分から受付、10時より四辻峠茶屋場前の広場で「山の日」セレモニーを行う。セレモニーでは、本主催者を代表して、日本山岳会東九州支部の安東支部長が山の日の意味について挨拶された。この後、注意事項、準備体操を行い10時10分に登山開始。

今回は雨乞岳・烏帽子岳・鎧ヶ岳のプチ縦走コースである。最初の雨乞岳までは標高差100mの階段の設けられている急登で一気到大粒の汗が噴き出す。多勢の参加者はそれぞれのペースで切り切り雨乞岳(Mt751m)着く。大分市と豊後大野市との境にある山。ここから西へ稜線づたいに烏帽子岳、鎧ヶ岳へと向かう。ルートは緩やかな登り、大半が木々に覆われ強い日差しは遮られていたが、湿度の高い分、汗の量が半端ない。雨乞岳から約1時間30分、鎧ヶ岳到着。帰りは平成パークラインを通して四辻峠に戻った。受付で下山確認を行い全員が戻ったことを確認し「山の日」の行事を終えた。

今回参加された方、お疲れ様でした。この山登りの趣旨は「山に親しむ機会を得て山の恩恵に感謝する」であります。今後も一人でも多くの方々に、山の感動を伝えたいと思います。



個人投稿

## ペンリレー・第50回

### 失敗を糧に

丹生浩司(14649)

私の一日は新聞を読むことから始まる。ある朝いつものように新聞を見ていると、山岳会の登山教室入門の記事を目にした。早速カミさんに話してみる。「体力作りにはいいかもね」の返事があり、二人分を申し込む。講座の内容は地図の見方やコンパスの使い方など、どれも初めてで知らないことばかりだった。登山教室は座学以外に実践もあり、どんどん登山にはまっていた。道具をそろえ、大分百山の本を片手に登山口を探し登った。

ある秋の日、山香の華岳に二人で登った時である。登りは難なく山頂までたどり着いたが、下山時、私が先頭でテープを頼りに降りていた。途中から登った時と景色が違うことに気づいたカミさんが「ルートが違うんじゃない、こんなところ通らなかったよ」と、私は「下に道路が見えるからこのまま降りよう」と言うが、「迷ったときは登り返せと座学で言われたでしょう」と一言。まだ登山を始めたばかりで体力のないカミさんであったが、体力がなくても登るといので又、山頂へ上り返す。すると間違ったところを見つけた。途中稜線から右に降りなければならぬところテープ通りにまっすぐ降りたようだ。テープは地籍調査のテープであった。登山道の目印となるテープと全く同じもので、テープだよりになるとこんな勘違いを起こす良い教訓であった。

それからは分岐があれば必ず目印を見つけるように心掛けた。また、下山のことを考えわかりにくいところは一度振り返ってみる。これはとても大事なことだと感じています。

山に登り始めて10年、よき先輩よき山仲間と出会い、北アルプスをはじめ県境の稜線歩き、山でのテント泊など教えていただき感謝です。

山はいいなあ、天気もいいし明日はどこに行こうかなあ。

※ペンリレー・次回は 唐津敏徳さん(16208)にお願いしました。お楽しみに！



## より安全な登山のために No.55 『K2』

安東桂三(会員9193)

本年7月29日、「K2 挑戦中 滑落」と新聞各社が報道した。パキスタンにある世界第2位の高峰K2で27日平出和也さん・中島健郎さんが滑落したニュースの報道であった。K2西壁の末踏ルートを登っていて、標高7000m地点から1000m滑落して、壁に二人は確認できるが動かず、救助は難しいとのことであった。その数日後

の7月30日、救助活動を終了すると決定された。

K2の滑落現場には、二人以外に登山者がいないこともあり、滑落の原因などの真実はわからない。過去に多くの登山家が山で亡くなっているが、全てその原因があり、原因を克服できないときに事故となっている。松濤明氏、加藤文太郎氏、植村直己氏、長谷川恒夫氏、小西政継氏、他数えきれない登山家、九重山や祖母山や阿蘇鷲ヶ峰で亡くなった一般の登山家も、同じく原因がある。今回のK2の場合、K2自体が一般ルートでも登る難度が高い。バリエーションの西壁は過去

にポーランドの世界的登山家バイテック・クルティカが、当時のトップクライマーを集めて4回トライしたが、いずれも6000m台で撤退している。

昨年のJAC年次晩餐会にて、平出・中島の両氏がK2に出かけると述べていて、大丈夫かと思っていた。事故のことを知りたいと思っていたら最近、大石明弘さんの報告を見つけた。大石さんは静岡在住の山岳ライターで、平出氏と2001年にチョ・オユー（8188m）に遠征している。彼は平出氏に「（K2西壁は）大丈夫なのか？」と連絡すると、平出氏は「そういうことを言うのは大石さんくらいですよ」と言ったそうだ。

その大石さんも彼らの滑落現場にいたわけではないので推察の域を出ないが、多くの岳人が述べているこの件については一番正しく把握していると思う。

報告によると現地では、天候不順が続いているので、大石さんは出発は出来ないだろうと思っていた。平出・中島の目指すクローワールは、雪が締まっていないだろうと推察。が、両名は雨がぱらつく中、ベースキャンプを出発した。

平出氏は「自分たちがコントロール出来るところまで登り、悪ければ降りてくる」と述べていたが滑落という結末になってしまった。平出氏の「行けるところまで登れば」は、「行けるところまで登らなければ」の義務感に変わっていたのではと推察する。また彼らが勤務する石井スポーツの速報では「C2 上部へ日帰り偵察」の記載があったが、大石さんは「本気のアルパインの登攀で「偵察」などは普通行わない」と述べ、二人同時に滑落したということは、コンテニューアスクライミング（二人がロープにつながり同時登攀）中に滑落したことを意味すると言う。コンテニューアスクライミングで滑落とは、二人の技術では考えられないと述べ、結論として、自然の脅威だけでなく、人間のさまざまな要素も絡み合い、重層的な原因で遭難が起きてしまったとしか私には考えられないと終えた。私もただ登りたいでなく、義務感があったのではとと思っていた。そんな義務感より生きて帰ることの方が、いつも重要と思う。

追記

先の文書はK2の事故のあと、すぐに書いた。その後、8/22 石井スポーツ遭難対策本部から最終の報告が出され、詳細がわかってきた。クルテ

ィカが「sickle（鎌）」と名付けたラインの登攀し、その後、西稜（1997年日本山岳会東海支部隊が登ったルート）に抜けて頂上へと考えた。クルティカのルートに可能性を見出し、落石などのフォールラインを避けるルートを見つけ出し、登れると確信を持ったと思う。今回猪熊隆之山岳気象予報士が応援した。猪熊氏の気象予報と現地の気象状況を精査することで、気象予報の確率は上がり、7月下旬から好天になることがわかり、24日に雨の降る中出発した。それ以降は好天となり、順調にルート伸ばし27日標高7550mから約1200m滑落してしまった。その7550m付近は、ブルーアイスの氷雪壁であり、アイスの塊と一緒に落ちたようだが、そのアイスの塊は、落ちてきたものか、滑落により落ちたものかよくわからない。

困難なルートを研究し、登れるルートを見出し、それにトライする生き様は、我々の登山にも影響をもたらす。志が半ばであったことに残念と思う。

2024年10月5日発行のROOK&SNOW（105号）に本会の柏澄子会員が詳細を執筆しているので、是非参照ください。

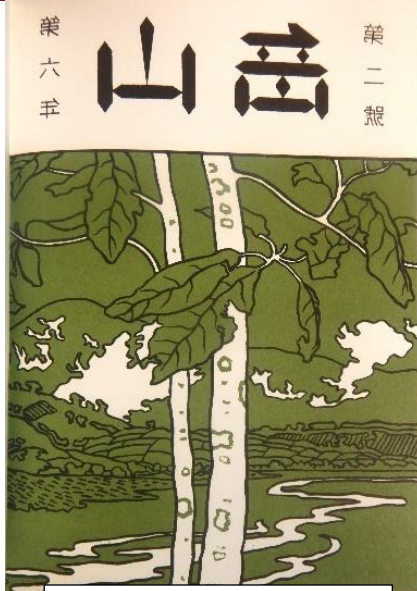
## JAC 古典「山岳」拾い読み No.5 阿蘇山の天幕・屋久島八重嶽

飯田 勝之(会員 10912)

第四年（明治42年）の第一号と第二号に載せられている九州に関する二つの記事紹介しよう。「阿蘇山上の天幕生活」（第四年・第一号）東京帝大理学博士中村清治、陸軍砲工学校教官福田為造、熊本第五高校教授平塚忠之助の三氏が文部省の命により阿蘇山で約三週間、磁石力変化の研究のためにテント生活をしたときのことである。

調査用の器具材料等を横浜から汽車で送り、山麓から馬七頭で噴火口付近まで運んで、新噴火口の周囲約四萬五千平方メートルに鐵條を張ったり、小岳の周囲十五萬五千平方メートルに鐵條を

張ったりしての準備や、狭いテントの中に磁器寫眞機其他器具類を据え付けて、その中に三氏が起臥し「辛酸をなめ其研究に盡瘁した」とある、その準備や天幕の設営とその生活である。



山岳・第四年第二号の表

まず、八月十日熊本を出発した博士一行はその夜山麓坊中に達せしが、夜遅く止まる宿なく辛うじて木質宿に泊れたが、粗末な宿であったが博士は「一等貳拾錢、二等拾錢、三等八錢と大安です」と微笑せりとある。

記事は調査研究の様子など詳しく書いているが専門的な内容で、ここでは割愛しよう。さて、博士一行の天幕生活が珍しいので、二十人乃至三十が見物におとずれる光景や、夜の雨に打たれて天幕での辛酸のことや、夜は二十分交代で望遠鏡を見つめるやら、写真の撮影など、博士自ら辛酸をなめる様子などが書かれている。

また、話を聞いた熊本や東京の新聞が「噴火力を利用して電力を得る研究をせり」とかさらに奇抜なるは「追々寒くなるので噴火口に機械を据え付けて火力(ストーブ)を熊本の街に送るため測量しつつあり」等の誤報のことなどが記載されている。

「屋久島八重嶽について」井上玄一(第四年・第二号)

屋久島八重嶽の最高峰、宮浦嶽は標高六千二百尺、三百尺、または四百尺と云い・・・で始まる島と山の紹介文である。

船便 「鹿児島種子屋久間を往復す、大和川丸(二七〇噸)、大川丸(一五〇噸)二隻なり。大阪商船会社の船なり、鹿児島を午後十一時出帆す、種子西之表迄八時間、屋久島まで四時間なり・・・」

八重嶽 「日向の南部に起これる一脈は屋久島の八重嶽に聯絡せり、屋久島は相環りて山、故に「八重」を以て嶽に名つく、全部皆花崗石、翠綠蒙翳、深谷底無きが如く、絶壁空より垂れ、蒼々鬱々、喬樹長幹蒼穹に入る、熱帯近けれども冬はなほ冰雪冠る」「八重嶽の中にて最高きを宮浦岳と呼ぶ、長田嶽是に次ぐ、又其に亞ぐを栗生嶽と呼べり、三嶽對立して鼎足の形をなせり…」  
屋久杉 「屋久杉は屋久島、国有林の特産物にて樹齡二千年有餘年を経過せしものあり、此樹は海拔約一二〇〇米突の位置よりあり、縦・梅他闊葉樹に混生或いは群生し、一八〇〇米にてやむ、材質は充密多脂にして光沢を有す・・・」  
登山 「主たるものは四條あり、宮浦よりする北路、安房よりする東路、平内よりする南路、長田よりする西路なり、宮浦より絶頂迄は十三里他は各八里なり・・・」

この筆者は宮浦から登り平内に下っているが、宿帳によれば他に四名来島していたが、植物・地質の学者であつたらしい。氏は「八重嶽を南海の孤島と輕視せらるることなく、大いに探検を望み、この名山を天下に紹介されんことを期待するものなり」と結んでいる。

(この号の新入会員紹介に大分県から第三年第一号以来二人目の関範氏(佐伯市)の名前がある)。

### こぎこぎ倶楽部

かちじとうげ

## 陸地峠～枯椋山の

## 県境稜線踏査

中野梨絵(会員16955)

7月7日(日) 天気・・・晴れ

7時に重岡駅に集合。皆が集合するまでに駅を散策していたら、上り下りの電車がちょうど駅に入り、二車両が向い合せて止まりました。こんなシャッターチャンスはないと、皆で盛り上がりました。その後、車に乗込み陸地峠へ移動、若山稜線に車をデポし、陸地峠から登山開始。

陸地峠には立て看板があり、その横の階段を上ると明治10年に官軍と薩摩軍の壮絶な戦い(西南の役)薩摩軍はこの陸地峠に防備を固めて

いたが、官軍は、雨の中奇襲攻撃を仕掛け、薩摩軍を全滅させた。当時の戦いの跡である塹壕や砲台跡が残され、周囲には戦没者を祀る墓や慰霊碑が建てられている大変歴史ある場所からのスタートとなった。まずは道路脇の斜面を四つん這いになって登る。土が柔らかい為、足の踏ん張りがきかず悪戦苦闘して時間がかかった。登り上がると県境稜線につき、稜線上にネットがはってある、大分県は雑木林(自然林のまま)で、宮崎県側は植林をしており、2mくらいに育っていた。



そこから遠くの間々が、右から前障子からはじまり桑原山まで、大崩・祖母傾山系が青空の中きれいに見えた。しばらく稜線を、草木をかき分けながら歩く、途中、セミが全開で鳴き、真夏だなあと感じたり、かわいい鳥のさえずりに癒された。ただ、ほとんど風がないので、蒸し暑く、汗びっしょりで599mのピークにつく。



ここで昼食を食べてゆっくりしていると、旧日本軍の防衛基地を示す石柱が見えた。ここが防御陣地であったことがわかった。ここから枯縦山664.9mを目指す、時間がないので608mのピークまで行き、引き返す。昼食を食べたところまで引き返し、北北東566mのピークを目指して歩く。稜線に植林の作業道がみえて、ここから車をデポしたところの下る。大変蒸し暑い山行でしたが、なかなか行けない歴史ある場所を堪能した一日でした。

参加者…飯田、中野(稔)、宮原、佐藤(裕)、中野(梨)、遠江、清水(道)、清水(久)、平原(瑞)、佐藤(美)

## こぎこぎ倶楽部

### 神楽山 (541.8m)

清水久美子(会友178)

2024年8月25日、午前7時集合予定場所の佐伯市運動公園駐車場に集まったのは、昨日急遽3名キャンセルが出たとのことで、今回は4名です。今日の山行は、石神峠から三等三角点の枯縦までの間の県境稜線を歩く予定でした。ところが、黒沢ダムから播磨谷林道を登っていくと、何と林道が工事中で、おまけに重機2台が林道を塞いでいます。石神峠まであと1km足らずの所で、石神峠にたどり着けないばかりか、その先の林道へも入っていけないという事で、予定のルートは断念しなければなりません。

急遽予定変更となり、リーダーの飯田さんから「せっかくここまで来たんだから・・・」と①場照山に登るか、②神楽山に行くかの2つの代替案を提案してもらいました。場照山は何度も登っている、行った事ない神楽山に行きたいと申し出しました。飯田さんが過去に登ったことのあるルートは、急登でハードな稜線直登ルートと石草峯から続く稜線を歩くロングルートの2つという事で今回は、飯田さんも登ったことがない林道を使つてのルートを決めることになりました。

県道佐伯蒲江線の芦川谷入り口の反対側の林道に入り、約1,3kmの林道脇の広場に駐車。午前9時、やや荒れた林道歩きが始まります。この日の天気は快晴、林道は陰があまりなく、風もなく、直射日光の攻撃に耐えながら、歩いていたら、キイロスズメバチに襲われました。始めアブだと思って払ってしまい、それで刺激をしてしまったのか手の甲とお腹を2か所刺され、ビリビリともの凄い痛みが…。幸いにも飯田さんが持っていた安全ピンとポイズンリムーバーを借りて毒を吸出したので、腫れもほとんどなくすみました。さすが飯田さん、危機管理能力が高いので、蜂対策の準備もされており、もの凄く助かりました、感謝です。

その後もヤブやアブと格闘しながら進むと、10時20分林道終点で、その先のヤブの急斜面を必死で登り何とか稜線へ。有難いことに稜線は木陰で、風も抜けるので先ほどの灼熱地獄から少し

解放されました。それに歩きやすくてとても快適な稜線道です。途中急登はありましたが、休憩をとりながら、ペース配分をしてくださり、熱中症にならないよう無理のないよう登ったので、11時50分ごろ無事に神楽山山頂に到着できました。



神楽山 山頂にて

山頂で期待していた展望は周囲の樹木の成長により臨めませんでした。久々の達成感で胸がいっぱいになりました。帰りは途中の分岐委から、スズメバチのいる道を避けて、行きとは違う林道コースで、途中、不要なヤブジラミの実のお土産をズボンにたくさんいただいたりしながらも、思っていたよりも早く14時前に駐車場所に戻ることができました。

本日の山行はルートファインディングの良い経験になりましたし、蜂に刺されたときの処置方法などを身を持って経験できたので、良い勉強になりました。凄く充実した1日でした。代替案を提案してくださった飯田さんと御一緒していただきましたメンバーの皆様に感謝です。



神楽山地図

参加者…飯田、清水(道)、清水(久)、土谷

## こぎこぎ倶楽部 中ノ嶺～宗太郎越 県境稜線踏査

飯田勝之（会員10912）

9月16日（月）

当初の予定は9月15日（日）であったが、終日雨の予報で急遽一日延期を決めて16日の朝が来た。午前7時日豊本線重岡駅集合予定より40分早い時刻に櫻井、甲斐両氏と待ち合わせは、下山予定地に車のデポのためだ。別府を出るときはまだ降ってなかったが、三重町あたりから車窓に雨粒が当たり始め、三国峠トンネルを出ると大粒となり、小野市を過ぎたら土砂降り状態。駅前で待つ両氏と会って、屋根の下で互いに顔を見合わせて「この雨でどうする？」と無言の苦笑い。そのうちに今日の参加者9名が揃った。（当初の予定は12名だったが1日延期で3名減る）

9人で「どうする？」を続けていると、ちょうどそこへ上りと下りの特急電車の離合待ち合わせ停車で、二台の電車に皆でカメラを向けると車掌が窓から手を振っていた。

そして、気付くと雨は殆どやんでいる。「行こうぜ」と決まる。まずは宗太郎駅近くへ二台、途中の椎葉山からのエスケープを考えてその下山地点に一台置いて、残り二台で林道宇目蒲江線の大原越入口の林道分岐から入山開始は7時50分。

準備中にまたパラパラときた。急ぎザックカバーを付け、雨具は着る者、着ない者で出発する。甲斐さん先頭、櫻井さん最後尾で草深い荒れた林道を行く。林道終点から草つきの急斜面を登り、8時30分に県境稜線に登り着く。いつの間にか雨はすっかり上がっている、この稜線は思った以上にヤブが煩い。しかし、しばらく行くとやや開けた稜線道となる。地図にある大原越の破線の道は殆ど判然としない。

木立の中で景色も見えず、風もなくやたらと蒸し暑い。度々水分補給の休憩が必要だ。幾つもの緩いアップダウンで10時40分、458mの標高点に着く。ここまで2時間を見ていたが50分余計にかかっている。

一休みして再出発。右は照葉樹の自然林、左はスギ、ヒノキの人工林が宗太郎の手前まで続いたが、稜線道はかなり快適だ。途中で椎葉山へと書かれた小道表が目についた、私が以前（2013年）、椎葉山の三角点踏査で登りついた地点で、天候やタイムによってはここからのエスケープも考えていたがもう必要ない。20分余り行った先の急斜面を登りつめたところが椎葉山だ。11時40分着で予定より20分以上早く着いた。コシダに埋もれて三等三角点がある。ここでランチタイムとする。



椎葉山にて

集合写真を撮って12時過ぎに再出発するが、このピークからの下りで、二つの尾根を東から西に、そしてまた東へと二度も大きくトラバースの軌道修正が迫られた。なるほど地図を見るとここは、よほど読図慣れた人でも難儀をするに違いない地形だ。（ヒヤリハット：今日の反省・間違った尾根を登り返さずに、横にトラバースを繰り返したことだ。最初の尾根の間違を気付いた時に登り返して読図し直せばよかったのだ）

あとは単調な稜線散歩で、13時5分425m、13時45分384mの標高点を通過。ほぼ予定時刻に戻った。この後しばらく平らな快適な稜線散歩が続き、ご機嫌でいたら急な下りが始まり、目前に見えていた最後の松葉のピークがどんどん高くなる。そして鞍部からの登り返しの始まりは、わずか50m弱の登りが、7時間半歩き通してきた老体には足が重くてしんどい。

14時30分、点名松葉の三角点に着いた。小さな四等の標石と13年ぶりの再会だ。「迫ヶ谷山」と書かれた小さな山頂標識をバックに写真を撮る。あとは下山だけ



松葉三角点にて

だ。コシダの繁る、足場の悪い急斜面を下って行くと、下りきった所に小さな掘り割があった。宗太郎と隣県の松葉を結ぶ宗太郎越の道だ。そこから荒れ果てた峠道を下って行く。小さな清流で顔を洗ったりして行くと荒れた林道に出て、その道をどんどん下って行くと日豊本線のトンネルの上で、真下にレールを見て15時55分に国道に出た。車をデポ地点から回収後、16時30分、重岡駅前まで次回再開を約して解散となった。  
参加者：飯田、櫻井、今川、境、後藤、平原(瑞)、榎園、甲斐、土谷

## 個人山行報告

### 「犬戻峡 沢登り」

寺道 和代（準会員 A-0599）

犬戻峡沢登り 場所：寂地山 犬戻峡  
日時：令和6年7月26日（金）  
コースタイム：寂地峡案内所駐車場【7：00】→犬戻峡入口（入渓）【7：30】→林道の滝・竜神の滝・犬戻滝→犬戻歩道入口（退渓点）【13：00】→犬戻し林道→下山（寂地峡案内所駐車場）【15：00】

山口県の寂地山宇佐川の上流の犬戻峡。寂地峡案内所駐車場で、入渓の準備を済ませる。綺麗な沢と緑の景観に心躍らせながら、早々に入渓。朝早い時間なのに、それほど冷たいとは思わなかった。大きな堰堤にぶつかり、それを越えてしばらく歩くと、5mのF1に出逢う。安東支部長をトップに、私、橋本さんが繋がり左岸を軽快に登る。綺麗な川原を歩いたら、小さな滝があり、なめ床が続き、堰堤を超えるとまた、綺麗な川原と小さな滝となめ床がいくつも続く。



登るごとに、沢水の温度が冷たくなり、緑も深くなる。滑りやすい部分もあったが、安東支部長さんにロープはしっかりと繋がれており、安心して沢を楽しむことができた。

途中、愉快的な仲間たちの歓迎を受けた。必死に滝を登ろうと苦戦する蛇さん、銅像のようにピクリとも動じない大きな蛙さんである。

メインの犬戻しの滝は、高さ10mほどで、底が見えない大きな淵が特徴的である。橋本さんがトップでリードチャレンジ！取り付けまで泳ぎ、安東支部長の指示を受けて、右岸を登攀される。めちゃくちゃカッコいい！と私は写真を撮りまくった。

その後、川原、なめ床、沢の流れを十分に堪能しながら、終了点までたどり着くことができた。緑の景観は美しく、水は綺麗で心地よく、また、訪れてみたいと思える遡行でした。ただ、強力虫よけスプレーにも退散しない、ものすごい数のアブに、最初から最後まで囲まれ、刺されますので、ご注意ください。

参加者：安東、橋本、寺道

## 個人山行報告

### 「陶ヶ岳クライミング」

橋本桂（準会員 A-0488）

陶ヶ岳クライミング 場所：火の山 陶ヶ岳  
日時：令和6年7月27日（土）（曇り時々雨）  
8時、登山道を30分程歩き、取り付けに到着。  
よいウォーミングアップとなる。

スタートは国体ルート。

初のオールリードにチャレンジする。

日出の岩などでマルチピッチ、リードの練習をした。やってみたい！そんな気持ちが湧いてきた。

練習の成果を発揮する時がきた。安東支部長からは、「基本に忠実に！」

と、声をかけられる。支点の取り方、環付きロック…ひとつひとつ…確認するのだぞ。そう自分にいい聞かせ、出発する。

国体ルート：1P

20m/5.5 2P 7m/5.5

3P

15m/5.5

ノーマルルート：1P 20m/5.7 2P 10m/5.5

3P 15m/5.6 4P 15m/5.9

ところどころで、本当に5.5?なのか?と思わせるようなルートもあった。レイバックでもない…体重移動も上手く決まらない場所、スラブのような手のひらに力を込めて登るような場所。心もとない場所もあったがどうにか登攀。支点構築や、どうしたら、フォロワーが登りやすいか、ロープの流れ、仲間へのコール…いろいろな事を一人で考えながら行った。

次に、ノーマルルートを登り始めるが1P登ったところで意識が遠のく感じあり。熱中症の気配。国体ルートを登る時は曇りで多少の風がでていたが、ノーマルルートを登り始める頃には無風に変わっていた。照りつける太陽にこれ以上登る余裕なく、早めに安東支部長に声をかける。すぐに下山の指示あり。懸垂下降で終了する。

国体ルートでは、今までの私は、フォロワーで登る事しか考えていなかった。今回の経験でマルチピッチにおいて、大きく視野が広がったような気がしている。どうしたら安全に操作できるのか、これからも繰り返し練習をしながら自分のものにしたいと思う。ノーマルルートについては、仲間には迷惑をかけてしまったが早めに申告できてよかったと思っている。自然相手なので常々、無理は禁物。今回も学びの多い山行だった。

参加者：安東、橋本、寺道





## 個人山行報告

# 「山岳連盟沢登り研修会 コウザキ谷に参加して」

濱崎 哲也 (会友 275)

8月25日(日) 天気 晴れ

私は、佐伯市宇目町新百姓山北面のコウザキ谷で開催された、大分県山岳連盟主催の沢登り研修会に参加しました。戸次から車を相乗りし、木浦内トンネル先の広場に8:30に集合しました。

集合場所は標高約600mで、車10台程度が駐車可能な空き地です。ここで沢シューズやハーネスなどの装備を整えました。この地点では携帯



電話が圏外だったため、防水袋に入れてザックにしまいました。安東支部長から「沢登りでは登山道がない

自由さを楽しめる」とのお話や、「沢であるが故に大きな危険がある」という注意喚起を受けた後、参加者は上級者組と入門者組に分かれて出発しました(9:00)。

私は入門者組に参加しました。駐車場から県道沿いに少し歩いて沢に降りると、すぐに大滝(標高660m)が見えてきました。ここからは佐藤(彰)さんと荒巻さんに先導していただき、ロープで繋がりながら登りました。初めて沢シューズを使用したため、その独特な感触に戸惑いましたが、サポートのおかげで楽しく登ることができました。その後もロープを繋いだままチョックストーン(標高750m)に到達しました

(11:00)。腰上まで水に浸かることもあり、しばらくすると寒く感じることもありました。チョックストーンの箇所では、狭い隙間を全身でよじ登り、ロープのテンションで助けられました。その先は水が少ないこともあり、ほとんど水に浸からずに岩場を歩きました。12時には昼食休憩を取り、ロープや装備を片付け、889mのピークへ向かい13時に到着しました。

しばらく稜線を歩いた後、道なき道を下山し、15時に駐車場に到着しました。フェルトソールで下山した方が滑って歩きづらそうにしていたが、状況によってはチェーンスパイクの使用も有効であるという話も出ていました。また、下山においても登山道がないため、読図の重要性を改めて実感しました。初めての沢登りでしたが、集合場所までの道中で聞いていたような寒さは感じ



ず、気持ちよく歩くことができました。最後に、お世話になった皆さまに感謝申し上げます。

参加者…安東、田所、佐藤(彰)、笠井、甲斐(善)、寺道、上野、川村(寅)、川村(美)、濱崎、荒巻、田浦 以上12名

## 私の無名山ガイドブック No.94 槻木(819.7m) 中畑(717.0m) 柚木(692.9m)

飯田 勝之 (会員 10912)

今回も中津市山国町奥耶馬溪の峰で、毛谷村川左岸側に南北に並ぶ三つの四等三角点の峰の紹介しよう。

### 槻木

旧耶馬溪町と山国町の境界をなす分水嶺稜線から西に、山国川源流部(毛谷村川)へ派生した支稜線の上の大きな盛り上がりで、西に毛谷村川、北に合支川、南に中畑川の谷間が囲っている。この山域は山頂稜線近くまで植林がなされており、このピークも山頂部のみアラカシ、コナラ、タブ、リョウブ、クロキ、ヒシャカキ、シキミなどが見られるだけである。

国道496号の合使入口バス停から合使へ至る車道を入り、合使に入らずに林道を直進すると約1.3km付近で右に分かれる林道があり、ここを登山口とする。この林道を入ると約150mで三叉路があり、これを左にほぼ平坦に行くと約400m、合使林道から10分ほどで右に斜めに上る荒れた作業道が分かれる。この作業道を登ると、道はスギ林の中を大きく迂回しながらZ字形に登っていく。分岐から約20分で作業道の終点で、そこから真っ直ぐにスギ林を登る。広い丸い稜線上の登りである。15分足らずで一旦平らになるとそこは山頂直下の肩の部分で、その先の急傾斜の広葉樹の疎林を高度差30mで直登すると10分弱で山頂に着く。

参考タイム：登山口→30分→林道終点→30分→槻木（地形図：耶馬溪西部・英彦山）

#### 中畑

中摩殿畑山から北に派生する稜線からすぐに西に分派する稜線があり、これは小原井川と中畑川に挟まれて徐々に高度を下げながら、最後に急斜面で毛谷村川に落ち込んでいく手前のピークである。付近はほとんどスギ、ヒノキの植林地でこの三角点付近も稜線部分のみアラカシ、ヒシャカキ、ツバキ、アカマツなどが見られる。

国道496号の槻木の小原井から東に入る林道井出之河内線を上れば約2kmの分岐あたりまでは乗用車も行けよう。その分岐の100mほど手前の、道路右手の簡易水道のタンクが目印で、道路の左手の小谷が登山口に良い。小谷の左岸から照葉樹の林に踏み込み、ルートはないが下草もないので急斜面を直登していくと良い。相当な急斜面で、アラカシやタブ、ツバキなどの幹に捕まりながら登っていくと、ヒノキの林となり、そのまま真っ直ぐにどんどん登っていく。林道から50分ほどのアルバイトで主稜線に達し、左(西)へ50mほど緩く登れば鈍頂に至り、中央に三角点がある。

参考タイム：登山口→50分→中畑（地形図：耶馬溪西部・英彦山）

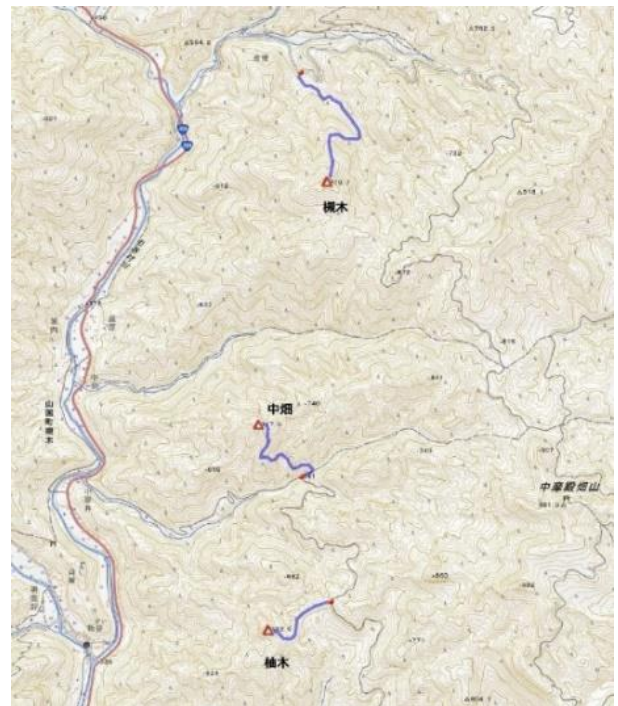
#### 槻木

槻木の谷の入口で衛門のように西の高場のピークと対峙して東に迫る稜線上のピークである。付近の山林はほとんどスギ、ヒノキが植栽されており、この三角点付近も山頂部のみにハイノキ、ア

ラカシ、シデ、クロキ、リョウブ、シキミなどが見られる。

国道496号の槻木の小原井から東に入る林道井手ノ河内線を上ると、約2kmの分岐あたりまでは乗用車も行けよう。分岐を右に登っていくと10分足らず(500m)で分岐がありこれを右に登る。急な傾斜地を過ぎると緩くなり路面もよくなる。前の分岐から約40分(1.8km)行くと右に分かれる荒れた林道があり、ここまでRV車なら来られよう。また、柚ノ木から登る林道を来てもここまでRV車ならこられよう。三叉路から右に10分ほど行くと林道が下りはじめるあたりから右の稜線につと着くと良い。急斜面を登り、照葉樹の尾根に出たら北西へたどる。小ピークを過ぎて少しくだって緩く登った先の、稜線の端に三角点がありその先は急傾斜で下っている。

参考タイム：林道三差路→20分→柚木（地形図：耶馬溪西部・英彦山）



### アマ・ダブルム エクスペディション

2024年10月20日より、11月16日の間、ネパール・クーンブ地方にあるアマダブルム(6812m)に登ってきます。このエクスペディションは、当支部の笠井が、昨年、本部山行委員会の台湾の山に登ったのがきっかけで、千葉支部の平野さんらから、お誘いを受けたことによって、始まりました。

準備期間が短く、高所トレーニング、技術トレーニングは不十分かもしれませんが、高崎山でのアッセンダーワーク3度、由布岳観音岩での同ワーク3度、富士山トレーニングを2度、高所順応ZOOMワーク1度、などを行いました。

ネパールでの高所順応は、トレッキング途中に2度行い、アマダブラムでもC2(キャンプ2)往復を行い、一度、休養したあと、11/3頃より、C1へ、11/4、C2へ、11/5、標高6280mのC3に滞在後、11/6登頂を考えています。全力で登ってきたいと考えています。多くの支部のメンバーに応援されて、責任重大ですが、しっかり登ってきたいと思えます。

この支部報が発行される頃には、大分にはいません。帰ってきたら、楽しい報告が出来たらと考えています

メンバー…安東、秋山、笠井、(千葉支部)三田、平野



## お知らせコーナー

### 支部からの報告(会務報告)

#### 支部会議開催報告

第3回役員会 9月26日(金) 18:30  
大分市西部公民館  
1. 月例山行・登山教室の報告  
2. 大分百山の現況

#### 支部役員会開催予定

第4回役員会 11月27日(水) 18:30  
大分市西部公民館  
1. 来年の山行計画について

#### 支部ルーム開催状況

8月2日(金) 大分市西部公民館 出席者 3名  
9月6日(金) 大分市西部公民館 出席者 2名

10月4日(金) 大分市西部公民館 出席者 2名

#### 支部ルーム開催予定

11月1日(金) 大分市西部公民館 18:30  
12月6日(金) 大分市西部公民館 18:30  
1月10日(金) 大分市西部公民館 18:30

#### 第11回登山教室のお知らせ

第7回講座 1月11日(土)・12日(日)  
集合場所・・・長者原ビジターセンター  
1日目・・・黒岩山  
2日目・・・三俣山  
宿泊場所・・・くじゅうヒュッテ  
担当 佐藤裕之 [sa10@mail.goo.ne.jp](mailto:sa10@mail.goo.ne.jp)

### 月例山行のご案内

#### 11月例山行：木山内岳～桑原山縦走

実施日・・・11月17日(日)  
所要時間：11時間 距離：12.8km  
木山内登山口～桑原山登山口  
参加申し込み期限・・・11月5日(火)まで  
担当 鹿島正隆 [macpapa@kcf.biglobe.ne.jp](mailto:macpapa@kcf.biglobe.ne.jp)  
※地図 木浦鉱山 祝子川 1/25,000

#### 12月：忘年登山と忘年会

##### 忘年登山・・・鉄輪ヶ城～高熊山～妙見山

日時・・・12月14日(土)  
集合場所・・・杵築市太田波多方  
ポケットパークはだかた  
コース・・・県道49号～市道～白川稲荷～鉄輪ヶ城  
(4等三角点 鉄輪城 462.0m) 往復

##### 忘年会・・・横岳自然公園横岳荘

日時・・・12月14日(土)  
宿泊所電話・・・0978-52-3146  
住所・・・杵築市太田保水4448-1  
参加申し込み期限・・・11月30日(土)まで  
申込先 下川智子 [hukus@yahoo.co.jp](mailto:hukus@yahoo.co.jp)

#### 1月例山行：涌蓋山縦走

実施日：1月26日(日)  
所要時間：6時間 距離：8.5km  
集合場所・・・地蔵原または岳湯～八丁原  
参加申し込み期限・・・1月14日(火)まで  
担当 鹿島正隆 [macpapa@kcf.biglobe.ne.jp](mailto:macpapa@kcf.biglobe.ne.jp)

※地図 湯坪 1/25,000

### 2月例山行：祖母山

実施日……2月16日(日)  
所要時間：10時間 距離：12.2km  
尾平～黒鉄尾根～祖母山～障子岳～古祖母～尾平  
参加申し込み期限……1月31日(金)まで  
担当 中野 稔 [zermatt1111nm@gmail.com](mailto:zermatt1111nm@gmail.com)

※地図 祖母山・豊後柏原 1/25,000

### シニアトレッキング

第三回 鎮南山(536.4m) 7年3月9日(日)  
申込先：下川智子 [hukus@yahoo.co.jp](mailto:hukus@yahoo.co.jp)  
※詳しい内容は次回の会報にてお知らせします。

### 新人会員の紹介

・会友 大前 京子 会友番号299

### 支部からのお知らせ

#### 第37回宮崎ウェストン祭・宮崎支部主催

日時……令和6年11月3日(日)  
場所……宮崎県高千穂町五ヶ所高原(三秀台)  
※参加ご希望の方は、事務局まで連絡(電話またはメール)下さい。  
担当 阿南寿範 [beca5844@oct-net.ne.jp](mailto:beca5844@oct-net.ne.jp)

#### 令和6年 年次晩餐会のご案内

日時……令和6年12月7日(土)  
場所……京王プラザホテル  
出席希望の方は来月の会報「山」10月号同封のお申込用紙を確認の上、お申込み下さい。

### 後記

- ・平成16年4月、アケボノツツジを見るため新百姓山に登った時、標高1100mあたりのスズタケが枯れかかっているのに気づき。変だなと思ったが、その2年後の秋に登った時には、かつてはスズタケに囲まれた小広場でしかなかった山頂の付近まで全部枯れ、広々とした裸地の林床だった。
- ・その後祖母傾大崩山系のスズタケは、標高に沿って枯死状態が進行していき、今年の春に祖母山に登ったら、山頂付近に僅かに青い稈が点在するだけで殆ど枯死状態だった。
- ・先日、本谷山西の稜線のシカの食害調査で歩いたが、この稜線のスズタケと原生林の面影は、今はもう跡形もなく、広い裸地とブナの大木の枯死を見ると無性に悲しくなった。そして元気良く繁茂し続けるアセビが恨めしくなる。(K・I)

次回108号の原稿は12月末の締切です。  
よろしくお願いいたします。(M・N)

### 公益社団法人日本山岳会東九州支部 東九州支部報 第107号

2024年(令和6年)10月25日発行

発行者 安東桂三  
編集者 中野稔・飯田勝之  
発行所 事務局

〒879-1113 大分市中判田15-55 阿南方

TEL・FAX 097-797-7120

E-mail [beca5844@oct-net.ne.jp](mailto:beca5844@oct-net.ne.jp)



**山溪**

西日本最大級の品揃え!  
since 1968  
登山・キャンプ専門店  
大分市生石1-3-1

TEL 537-3333  
FAX 537-3388

●西大分「交番」前高崎団地入り口  
●JR西大分駅より歩いて6分  
●10時～19時30分 ●火曜定休日

1968年創業の山溪があなたのアウトドアライフをサポートします。

山道具の110番開設中!

靴が合っていないのか、登山に行く度足が痛くなる…。リュックサックが肩にくい込む。テントが雨漏りする。道具の使い方がわからない…等々、弊社ご購入品にかかわらずご相談に応じます。